

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム敬寿園
(ユニット名)	やすらか
所在地 (県・市町村名)	山形県山形市大字妙見寺500-1
記入者名 (管理者)	荒木ひろみ(鈴木亜紀子)
記入日	平成 20年 7月 24日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	理念を玄関前に掲示している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	月一回のミーティング時、理念に基づいたケアを目指し、意見交換と、意識、ケアの方向性の統一している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	入居時に説明を行っている。 日常的にドライブや買い物、催し物に参加している事に、家族や地域の人に説明をし、理解して頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	環境的に隣近所と呼べる家が無く、隣近所の人と気軽に声を掛け合ったり、立ち寄ってもらえることが無いが、敷地内のケアハウスの利用者と日常的に交流をしている。また、園や地域の盆踊りに参加するなど交流が出来るようにしている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の文化祭や盆踊りに参加している。また、地域の子供たちが子供みこしを披露して下さるなど地元の人々と交流をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括支援センターが有り、そこが窓口となって取り組んでいる為、グループホームとしては行っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の中から、改善項目に優先順位をつけ、職員全員で話し合い、取り組んでいる。具体的な取り組み内容と方向性を一定期間を終え、取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで自己評価、外部評価、運動会、芋煮会家族会への参加。実際にグループホームでの入居者との関わりを持って頂き触れ合うことでグループホームを理解して頂けたと思う。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの行事に「参加して頂けなかったが、参加して頂けるように働きかけた。また、生活保護を受けている方については、面会や問い合わせが、昨年あった。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中で成年後見制度を必要とする利用者はいないが、資料を下に研修や全体朝礼で学んだことがある。また事業所内に何時でも閲覧できるように置いてある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し報告することで、虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族の契約や解約の際、十分に話し合いを行い、その際、不安、疑問点を傾聴した上で、理解して納得して頂くまで説明を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>山形県福祉サービス運営適正化委員会が設けられており、その旨ポスターとしてGH内の見やすい場所に提示している。又、運営推進メンバーが入居者に接する機会を設けている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や瓦版、家族会等で、利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について家族等に報告している。遠方の家族には定期的に電話で報告している。又、健康状態に変化があった場合は随時連絡している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>山形県福祉サービス運営適正化委員会が設けられており、その旨ポスターとしてGH内の見やすい場所に提示している。面会時に家族の意見(不満)や苦情を聞くようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>よろず箱の設置や月1回の全体朝礼で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>実際に勤務している職員の意見を聞きながら作成した。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人で、2施設の開設があったが、十分な引継ぎを行った為、利用者へのダメージ等は見られていない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修にほとんどの職員が参加している。研修報告は毎月発表し、全職員で供覧出来る様にしている。</p>	<p>○</p> <p>法人内外だけでなく、グループホームでも研修を行ってきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市、県内外のグループホーム職員の交換研修や、スタッフ研修に参加し交流を持つ事で、サービスの向上につなげている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>よろず箱の設置や泊りがけの新年会や歓迎会を行いストレス解消の機会を設けている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>向上心を持って働けるように、希望する勤務地や事業所への移動また、資格取得が出来るように、職員に対し常に働きかけている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に、事前面接を行い、その時に本人が質問等を聞いて話し合い、少しでもスムーズに入居できるよう対応している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に家族と話し合い、家族等が困っていること、不安なこと、求めていることを聞きグループホーム見学時にも家族と話を聞く機会を設けている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員と家族とが十分に話し合うことで、その状況に見合った支援を見極め、他サービスの利用も踏まえた上で検討し、出来る限りの対応に努めている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者と言う立場だけではなく家族の一員としての目線で食事作り、レクリエーション、家事といった役割活動を一緒に行い入居者の特性や心情を理解するようにしている。又、日常生活の中で本人が持っている知恵や知識を引き出せるような関係づくりを心掛けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り、運動会、芋煮会、クリスマス会に参加して頂き、楽しみを共有し、面会時には多くの会話をもち信頼関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会、通院、行事の際、本人と家族との会話出来る場を提供し、必要に応じて職員も交え、より良い関係を築けるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れない様に、面会に来た際はゆっくり会話する場を設けている。又ドライブの際には馴染みの場所に出掛けたり、通院先でも馴染みの人と合えるように場を設け、支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルにならないように職員が間に入り、お互いに支え合えるように努めている。	○	利用者同士で協調性のない利用者に対して職員との関わりを今まで以上に多くの関わりを持ち、その人に合った支援を心掛け他入居者との関係を取り持ちスムーズな人間関係が作れるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設替えした利用者に会いに出掛けたり、家族から手紙を頂くなど関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者の思いや希望を聞き、個別援助計画を作成している。思いや希望を伝えることが困難な利用者に対しても本人本位に検討し、家族の意向も取り入れるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	人生の歩みや、センター方式を通して家族等からの情報を得て、暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中で多くの関わりを持ちながら、バイタルチェックを行い心身の状態の変化がないか把握している。また一緒に生活をするなかで、利用者一人一人の持っている力を把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、全職員や管理者を交えたミーティングを行い、本人、家族の意見や希望を反映した個別援助計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月ごと見直しを行うことを基本とし利用者の状況に応じて、その都度介護計画の見直しを行っている。日常生活に変化が生じた場合は、家族に現状を伝え本人にあった新しい介護計画を立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を業務日誌、ケアプランチェック表からケース記録に記入している。又、気づきや変化等があった際は、申し送りノートやヒヤリ・ハットノートにその都度記入し、情報を共有して、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共施設などの協力を得ながら支援している	民生委員の訪問や研修生・ボランティアの受け入れ、定期的に消防署を交えた防災訓練、選挙投票時の公民館利用等、その他公共施設などを利用している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	退院の際ソーシャルワーカーやサービス事業者と話し合い本人に必要なサービスを行えるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	常に協働できる環境にはあるが、現在必要としている入居者が居ない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医がある場合は、入居後も継続して通院できるよう調整している。無い場合は、園の提携病院やかかりつけ医を紹介し、利用して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人に合わせた言葉遣いや能力に応じた対応を行っているが、利用者に不愉快な思いをさせてしまう言葉遣いをしたり、利用者の行動に対し強い口調で接してしまう時がある。	○ 暴言や暴力があった際、利用者の主旨を理解出来るように利用者の言葉を十分に傾聴し原因を把握した上で対応するように心掛けていきたい。また、利用者が嫌がるような言葉掛けや対応にならないように職員間で注意し合い利用者の話をいつでも傾聴出来るような雰囲気作りをしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	お好み献立や外出・買い物等自分で決めて頂ける場面を多く作り、自己決定をして頂き、よりよく暮らせるように支援している。	○ お好み献立や自由献立などで自分で決めて頂ける場を設けているが一人の利用者の言葉に左右されてしまい自己決定が出来ない利用者がある為自己決定が出来るようにしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限の規律ある生活の中で、個々のペースを大切に利用者一人一人の希望に沿った支援を行っているが、職員のペースになっている時がある。	○ 最低限の規律ある生活の中で、個々のペースを大切に利用者希望に沿った支援を行っているが、レクリエーション時、残存能力を高めていけるように、その人に合った活動支援を行い利用者との信頼関係を今まで以上に深め多くの関わりを持ち接していきたい。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容室に出掛け、本人の望むヘアスタイルをしている。お洒落をしてきた際は賞賛の言葉掛けをしている。身だしなみは本人にお任せしており、必要な方には手助けをしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る出来ないの見極めを行った上で、利用者職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。月に一回のお好み献立や自由献立を設け、利用者の好みを伺ったり、利用者食卓を囲みながらゆったりとした中で楽しく食事が出来るよう支援している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族の協力の元、好きな物を持参して頂きお茶時や食事に出している。食事の際、好みの物が出たときは多めに盛ったり、本人の希望によりヤクルトや牛乳を購入する等一人一人の状況に合わせた支援を行っている。又、自立できている方については本人の希望により買い物に出掛ける際、飴などのお菓子を購入し自己管理している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を付け、個々の排泄パターンを把握することで、必要に応じて紙パンツや尿取りパットを使用している。入居時に紙パンツで対応していた利用者也布パンツや尿取りパットを使用することで自立に向けた支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日就寝前に入浴を行なっている。お湯の温度や入浴時間は本人に合わせてゆったりとした入浴を楽しめるよう支援している。又、入浴時間を変更する際は、利用者の了解を事前に得て支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の個々のペースで休息を十分に取っている。日中活動的に過ごすことで、夜間の良眠に繋げている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人、家族より聞いた生活歴を基に、能力に合った役割活動、散歩等の楽しみ事を行う事で、メリハリのある生活を送れるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に紛失やトラブルを避ける為、職員側で管理しており、その旨を入居時に家族、本人に了解をして頂いている。又、本人の能力に応じて自ら支払いをして頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の状況に応じ、出来るだけ希望に沿った外出を支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力の元自宅に出掛けている。家族を交えたクリスマス会では、普段行く事の出来ないホテルに出掛けたりする機会を作っている。またドライブ等でなじみあるの場所や自宅に行けるよう支援している。	○	多くの利用者の方が望む自宅や馴染みの場所に、家族と協力しながら行けるように働きかけたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は自由に行って頂いている。職員が間に入り御礼の電話をかけたり、電話が来た際は本人と会話できるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人が尋ねてきた際は、居室、居間、食堂等に案内し、お茶を出したり、必要が無ければ職員席を外しゆっくり会話を出来る場を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、日常生活に支障を来す症状がある利用者に対しては、医師、家族と相談の上で、症状を緩和する精神薬を処方している。多動な利用者については、手を繋いだり共に行動することで精神の安定に繋げている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関や居室の鍵をかけることの弊害を理解している。玄関に、センサー対応し、安全に過ごされるように取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員は目を配り、利用者の所在を確認しているが食事準備時や利用者同士が落ち着き無く多動に動き回っている時など目の届かない時がある。又、夜間帯は定期的に巡回をし、常時いつでも駆けつけられるように安全に努めている。	○	利用者のプライバシーに考慮し不快な言動をしないように職員間で注意し常に利用者の行動を把握出来るように心に余裕を持って接していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の認知症の度合いにより、針や鋏、剃刀、爪きり、趣味の道具等を本人が所有し、使用して頂き職員も保管場所を把握し、確認している。包丁等は決められた場所に保管し管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会を設置している。事故発生時は事故報告書を作成して、各ユニットに配布し、全職員で供覧することで、再発防止に繋げている。又、ヒヤリ・ハットノートを作成し、事故が起こりそうな状況を把握できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や、自己発生時には、併設の看護師に看てもらったり、往診やすぐにかかりつけ医に通院している。赤十字の方を招き、職員全員心肺蘇生法、AEDの実演講習を受けている。	○	新職員も多く入り、また職員間でもう1度心肺蘇生法やAEDの講習を受けたいとの意見が出ている為、講習を受ける機会をもうけていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の防災訓練を行っている。7/14に代1回目の防災を行った。今年は妙見寺地内		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時や電話等で日常生活の様子をお伝えし、家族等に起こりえるリスクについて説明して、相談を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行ない、日々の生活の中で体調の変化や異変の早期発見に努めている。又、業務日誌や通院・往診記録に記入することで、情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内容証明をケース記録にファイルすることにより、職員全員内容の把握に努めている。全部の詳細は把握していないが、注意点については理解している。又、服薬変更後は申し送りノートや手渡しをする際、確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	お茶や食事等で多めに水分を取って頂いている。散歩、レクリエーションを多く取り入れたり、腹部マッサージを行う事で便秘予防に繋げている。それでも排便に繋がらない利用者は、主治医の指示の下、下剤の服用が習慣化しない程度に下剤を処方して頂いている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きは毎食後を基本とし、声掛けを行っている。介助が必要な方については、不十分な点をカバーしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは専属の管理栄養士が献立を考え、一日1600Kcalとしている。水分は、一人ひとりに応じた支援を行っている。水分が少ない利用者に対しては、声掛けを行い、水分量の確保に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員、入居者共に、インフルエンザの予防接種を毎年行っている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルで手を拭いている。感染症予防のマニュアルがあり、目につく場所に掲示している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内の温度管理を毎日行なっている。又、使用した調理器具は毎日洗っており、必要に応じて乾燥させたり消毒を行っている。食材は併設の厨房から新鮮な物が届いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札を玄関に掲げ、花や写真などを飾っている。玄関前や、ベランダにプランターを設置し家庭と相違ない雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレにさり気ない目印を付け、浴室には暖簾を設置している。食堂と居間がオープンスペースになっており、食事作りの音や匂いが日常的にある。入居者の家族の協力により季節の花を持ってきて頂いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間、和室で思い思いの使い方をしている。入居者間で居室訪室し、アルバムや外の景色を眺める姿が見られる。又、居室で新聞や本を読んだり、臥床するなど入居者一人一人の過ごし方が出来る様に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが入居時に本人、家族と相談し、今まで使用していた家具類を使用して頂ける様に支援している。又、本人の希望により馴染みの本や、新聞等購入し本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。亡くなった家族の写真や位牌を持ってきて頂いたり、以前より信仰している神様のお札を居室に置くなど本人が居心地やすい様にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際換気を行っている。トイレには消臭剤を置き、気になる匂いがこもらないようにしている。室温は必要に応じて温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関やホーム内に手すりにを設置され、不便なく生活している。散歩やドライブ等機会を持つ事で機能低下防止に努めている。又、調理や買い物など、職員の声掛けで個々の能力に応じ自立した日常生活をして頂けるように支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレにさり気ない目印をつけたり、トイレのタオルやスリッパ等を自分の物と錯覚してしまう為明記している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	草取りや野菜作りを実施している。ホーム周りでのお茶や食事を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

朝食時、自分でおかずを持ってくるバイキング方式を行う事で、自分の食べる量を把握でき以前よりも食事の残量が減った。気候が良い時はGH前の駐車場で昼食を取ったり、ドライブや買い物等に出掛けGHに閉じこもらない生活を送っている。信頼関係を持つ事で、職員入居者共に笑顔が絶えず明るい雰囲気の中で生活している。日常生活を通して役割活動に参加することにより、生活にメリハリのある生活を送っている。